

がん化学療法科 ニュースレター

## ほほえみ 第14号



年が改まり、2012年を迎えました。今年が、皆様方にとって、良き年となりますようにお祈り申し上げます。ニュースレター「ほほえみ」も、お蔭様で二年目に入りました。がん薬物療法に関する、最新の情報をお伝えする手段として、また、様々な情報の共有スペースとして活用していただけたらと願っております。

## 日本がん哲学外来市民学会

2011年12月に、日本がん哲学外来市民学会の設立が、長野県の佐久市で宣言されました。学会として活動を行うことは、がん哲学外来の創始者・樋野興夫先生の提案であり念願でした。各地に「がん哲学外来」が出来ますが、その担当者も設立発起人となっています。

日本がん哲学外来市民学会の設立趣意書では、

がん罹患した患者・家族の多くが、未来に対する不安と生き甲斐の喪失を体験している。一方、医療従事者は、患者の生き方や人生に関心を持ったとしても、それらについて患者・家族と十分に対話する時間的余裕がないのが現状である。患者・家族はがんとともに生きていく上で、病気を治すことだけでなく、人とのつながりを感じ、尊厳を持って生きることを求めている。わが国の生活習慣の中には欧米のようなカウンセリングが普及していないので、上記の患者および家族の受け皿は不十分であると言えよう。「がん哲学外来市民学会」は、医師、医療従事者、一般市民、学生、中高生とがん問題に関心を持つあらゆる人々が立場を超えて集う「経験交流」の場でもある。市民の立場に立つ「医療維新」を目指す。

と、記されています。がん哲学外来を経験された方には良さが実感としてわかると思うのですが、体験していない方に内容をお伝えするのは難しいですし、がん哲学外来の担当者を増やしていくことも急務です。これらの様々の課題を解決し、世の中に活動を広めていくことが「日本がん哲学外来市民学会」の使命とされます。

今年は、「がん哲学外来コーディネーター」の研修を行って、認定を行う予定になっています。その為には、どのような内容を盛り込んで、どの水準を目指すのかといった議論を早急に進めなくてはなりません。また、このプロセス自体が重要になってくるとされます。内容が伴わなければ、社会からは支持されないからです。今、私が取り組んでいるのは、「がん哲学外来」の要件を言語化する作業ですが、大きな課題の担当となっているので、気を引き締めています。

昨年12月には、新渡戸稲造記念 メディカル・カフェも立ち上がりましたし、今後は定期的開催予定です。メディカル・カフェは、「マイナス×マイナスをプラスに変える」場でもあり、見方によっては「がん哲学外来」以上に重要なものと思います。この活動を軌道に乗せることも、使命と思っています。

微力ながら、これらは意義の高い社会活動とっておりますし、メディカル・カフェなどは、すぐにどなたでも参加・活動できる場もありますので、長い目で活動を見ていただければと思います。皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。



福井県済生会病院の  
浅井三姉妹記念 メディカル・カフェ

## エベロリムス（アフィニール）の承認に関して

先月下旬に、膵神経内分泌細胞癌に対し、エベロリムスが承認されました。この薬剤は、特定のがん細胞のmTORを介したシグナル伝達系を抑える薬剤です。先行して、腎細胞癌で適応承認されていましたが、神経内分泌細胞癌のうち、膵原発のものに対し、追加承認されたものです。当面、市販後調査が行われる予定ですが、当院では、使用可能となります。抗がん剤と異なり、腫瘍縮小を目指すというよりは、腫瘍のサイズを維持して病勢のコントロールを行うことに力を置いた治療となります。口内炎、発疹、易疲労感などの副作用に加え、間質性肺炎の報告があり、十分な経過観察および、間質性肺炎発症時の適切な対応が求められる薬剤です。



ノバルティスファーマ社資料

## 第10回 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会

2011年12月22日に上記の厚生労働省の検討会が行われ、12月27日の朝日新聞オンライン版に内容の抜粋が報道されています。この報道によると、治験が開始されていれば、申請によって、その薬剤を当面使用しても良いという風に読み取れます。右の厚生労働省の資料では、公知申請が妥当であるものと、治験の実施等が必要と考えられるもので大多数を占めているので、この制度が実現すれば、ドラッグ・ラグの問題は概ね解消できる公算が高いと言えます。個々の薬剤に関しては、さらに情報を集める必要があるものと思われるが、一歩前進と考えて良いと思われる。

各WGの検討状況		合計
企業に開発要請したものの		75
公知申請が妥当であるもの	未承認薬	0
	適応外薬	24
既に開発に着手しているもの (承認申請済みのものを含む)	未承認薬	3
	適応外薬	8
治験の実施等が必要と考えられるもの	未承認薬	5
	適応外薬	29
実施が必要な試験や公知申請の妥当性について 検討中のもの	未承認薬	0
	適応外薬	6
開発企業を公募したものの		3
合計		78

## 悠々として

2011年は、東日本大震災、福島原発事故もあり、また紀伊半島の水害がありと災害の多い一年でした。今年は穏やかな一年であって欲しいと願っています。一方、冷静に災害を振り返った時、人には避けられないものも多くあるのだということを知らせてくれているのかもしれない。

歴史上も、後世から見れば、大きな転換点であると認識されても、当時の世相は「悠々として素餐する者、天下皆是なり。王道いつくよりして興らんや。」という状況もあります。悠々として素餐するとは、厳しく言えば「悠々と・・・役にも立たなくて、向上心もなく、ただご飯を食べている。」ということで、決して褒められた状況ではないですね。私自身も、今年一年はこの言葉を胸に刻みながら、悠々として・・・以上に生きたいと思います。

## MEMO

### 1月のがん化学療法科の予定

1月4日 仕事始め  
1月7日 七草がゆ  
1月9日 成人の日  
1月13日 柴田教授外来  
1月27日 柴田教授外来

新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ → 別途掲示します



今の子供は独楽を回せるのかなあ？